



立一 田中 議員 猛暑被害による 農家支援は

猛暑の地域経済に 与える影響は

質問

今夏の猛暑により米の収穫量は県内も含め全国的に低水準であるが、市内農家への影響や支援策、次年度での対応

策は。また、糸魚川産米ブランド化について、市の考えとJAとの連携について伺う。

市長答弁

猛暑での農家への影響は、11月17日現在のJAひすいの状況から、前年度比較で約1億3千万円以上の減収と推計



伊井澤一郎 議員 産業廃棄物最終 処分場の対応は

地元住民の安全安心 への体制は

質問

行政管理が不十分なため西海地区の産業廃棄物最終処分場にて、有害物である鉛が法定基準以上に検出された

が、調査結果と処分撤去の方法、撤去時期、地元住民の安全安心の確保など今後の対策や処分場のあり方について伺う。

市長答弁

地元住民の安全安心の確保対策として、本年度3回の地下水調査を実施し、全て基準

している。支援策としては、県との連携で利子補給制度を実施中だが、今後「コメ品質に関する研究会」の方針に基づき、栽培指導を図っていく。また、糸魚川産米のブランドの確立を目指し、関係機関と連携して品質の基準づくりや販売促進などを進める。

今年も大雪の予想だが 除雪体制は

質問

昨年の大雪の経験から今年

値を下回っていた調査結果を、その都度、地元の環境保全委員会に報告している。今後処分場の整備に多くの費用が掛かるが、今年度の調査結果と適正化の基本的な考え方の提案により、事業費の積算を行う。なお、処分場施設については閉鎖の方向で検討中である。

公民館体制見直しに 対する説明会の反応は

質問

公民館体制は、各地域でそ

ど、冬の除雪対策について伺う。

また、屋根雪等除雪支援補助金では、山間部と平野部の区分をしているが、実態に見合った助成金とすべきと思うが考えを伺う。

市長答弁

昨年は除雪能力を超えた降雪状況であり、今年により効率良く除雪を実施し、交通の混乱を最小限に食い止めたいと考えている。なお、消雪パイプ路線は、新設1路線増の222路線、延長57.2kmである。屋根雪等除雪支援補助金で

それぞれの文化歴史があるが、2回目である説明会は住民に理解、納得されたのか伺う。また、新公民館体制に移行後5年後の職員の待遇と地区の活性化などメリット・デメリットを伺う。

教育長答弁

説明会は12月中に2回目を終了するが、3地域で異なる組織や運営形態を統一するため、地域により個別の意見が出ています。

統一の必要性は、おおむね理解いただいたと考えているが、現状の制度が変更となる

の地域区分は、過去の積雪の状況等を勘案した上で、18年度に民生委員と協議し現在の区分となっている。

なお、現行の助成額は今年の実績から1回1万2千円は妥当であると考えているが、助成方法も含め実態に即した事業内容とすべく改善を図っていく。

《その他質問項目》 ・並行在来線

部分は、不安の声も聞いている。

新体制での職員の待遇は、市内の全公民館が統一した配置基準により職員が配置される予定であり、メリットは市内3地域の取扱いが統一できることであり、デメリットは能生、青海地域に新たに職員を配置する経費の増加である。

《その他質問項目》

- ・携帯電話不感地区の解消
- ・情報基盤整備工事の地元貢献